



自衛隊埼玉地方協力本部

JAPAN SELF DEFENSE FORCES SAITAMA PROVINCIAL COOPERATION OFFICE

予備自衛官一日間招集訓練を実施

自衛隊埼玉地方協力本部（本部長 山下真司一等空佐）は、七月十二日（日）、今年度最初の予備自衛官一日間招集訓練を実施した。

本来であれば、一日間招集訓練は各四半期の最初の月に実施すべきところ、新型コロナウイルス感染症対策のため、四月の訓練は中止したため、今回は本年一月から六月までの間に自衛官退職後一年未満で採用された、幹部三名、曹士二十三名（うち女性五名）の予備自衛官が参加した。

また、会場についても、いわゆる三密を回避するため狭隘な埼玉地本会議室ではなく、埼玉県芸術文化振興財団が管理する埼玉会館会議室を借用し実施した。

当日は、訓練に参加した予備自衛官を代表して、若口予備二等陸佐が出頭申告をした後、山下本部長が予備自衛官の国防における重要性をはじめ災害派遣活動における期待度等について訓示した。その後、援護課長による精神教育や担当者による制度説明を行い、次年度以降の五日間招集訓練への出頭意欲向上を図った。その他、即応予備自衛官応募資格を有する予備自衛官に対しては、担当者が個別に面談を行い、即応予備自衛官に任用された場合の活動内容や処遇に関して丁寧に説明しながら、即応予備自衛官への志願を勧誘したところ、二名の志願者を得ることができた。

埼玉地本では、今後とも予備自衛官に寄り添った親身な対応と身上把握により、充足率及び訓練出頭率の向上を図るとともに災害派遣等の招集機会には迅速に対応できるよう様々な施策を講じていく所存です。



任期制隊員ライフプラン集合訓練を実施

自衛隊埼玉地方協力本部（本部長 山下真司一等空佐）は、七月十六日（木）と十七日（金）の二日間、埼玉地域援護センター（大宮駐屯地）で令和二年度第一回任期制隊員ライフプラン集合訓練を実施した。

この訓練は、入隊後一年を経過した任期制隊員に対して、ライフプランの重要性と自衛隊が行う就職援護施策を教育し、それぞれの隊員の人生計画を確立させることを目的に実施しているもので、今回は大宮駐屯地所在部隊の隊員三十二名が参加した。

初日の十六日は、ライフプランの目的と意義について教育した後、任期制隊員の人事制度と自衛隊の援護組織の概要を理解させた。昼食を挟んで午後からは、退職予定隊員に対して実施される、部内外の様々な技能訓練の内容を具体的に例示した他、予備自衛官等制度についても説明し、退職後の予備自衛官への志願促進を図った。

翌十七日は、上級部隊から派遣された人材育成支援会社の講師がライフプランの作成要領を説明した後、参加者それぞれに自身のライフプランを実際に作成させ、人生設計の早期確立とキャリアアップの一助とした。

参加した隊員からは、自分自身の人生設計に大変参考になり有意義な訓練だったとの声が多数聞かれた。埼玉地本では、任期制隊員に対する就職援護施策を引き続き充実させ、退職予定隊員の生活基盤の確保を通じて、募集等の基盤の強化に努めていきます。

